

研究 主題	自ら学びに向かい読みを深める児童の育成 ー文学的文章における問いを立て読みの交流を図る単元構想の工夫ー
----------	--

第5学年国語科学習指導案

指導月日 令和4年10月21日

所属校名 石巻市立釜小学校

氏名 佐竹 諭美

1 単元名「描写に着目して作品を読もう」（東京書籍 新しい国語五）

2 単元の目標

- (1) 思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすることができる。〔知識及び技能〕(1)オ
- (2) 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)エ
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

3 取り上げる言語活動と教材

言語活動 物語を読んで理解したことを基に、「大造じいさん日記」という形式で人物像をまとめる。
(関連：〔思考力、判断力、表現力等〕C(2)イ)

教材 「大造じいさんとがん」

4 単元観

本単元は、小学校学習指導要領国語科の第5学年及び第6学年の内容〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)エ「人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること」を重点指導事項として設定したものである。

本単元で扱う「大造じいさんとがん」では、猟師である大造じいさんとがんの群れを率いる頭領「残雪」との戦いの様子が、情景描写とともに描かれている。大造じいさんは計略に失敗しながらも、残雪の賢さや潔さ、頭領として仲間を守ったり、傷付きながらもはやぶさに立ち向かったりする勇敢な姿を見て、残雪に対しての見方が変化する。猟師である大造じいさんにとって残雪を逃がしてしまうことは、がんを捕まえられず、生業に影響を与える。しかし、最後の場面で晴れ晴れとした顔つきで残雪を見送る大造じいさんの心情を想像することで、人物の生き方に触れて読むことができる作品であると考え。

児童は初読でも、物語の始めと終わりの場面を比較して、大造じいさんの残雪に対する心情が大きく変容したことは容易に読み取ることができるだろう。特に大造じいさんが残雪を撃たなかった場面と残雪を見送った場面について児童の心は動かされることが予想される。大造じいさんは、残雪を猟師の獲物としてしか見てこなかったが、動物たちも知恵を働かせて、懸命に生きていることに感動し、残雪に対して好敵手として見る気持ちに変わっていく。その様子を、物語の様々な描写やその効果から捉え、人物像や物語の全体像を具体的に想像することができるものと考え、本単元を設定した。

5 児童の実態[第5学年1組32名]

これまでに児童は、7月の単元「世界でいちばんやかましい音」において、物語の構成や山場で起きた物語の変化、中心人物の心情の変化を捉え、叙述を基に根拠や理由を整理し、中心人物の気持ちを考えることができるようになってきた。また、考えを共有した後、改めて自分の考えをまとめさせたこと

で、読みを広げた児童や、友達と考える楽しさに気付いた児童が増えてきた。児童の振り返りからも「王子様の気持ちの変化が分かった」「物語の山場が分かった」「友達の考えと自分の考えを比べて読むことができた」「新しい考えを生み出すことができた」などの記述が見られ、自分の読みと友達の読みをつないでいる様子うかがえた。授業では、児童が疑問に感じたことが単元の学習課題であったことから、単元を終えるまで自分から進んで解決しようとする意欲が継続している様子が見取れた。

一方で、国語の文学的教材の学習に関する実態調査（7月実施）によると、「叙述を基に物語の様子や人物の気持ちを読み取ることができたか」という質問では、「思う」「大体思う」と回答した児童が31名であった。しかし、「全体で読み深めていきたい問いについて自分から考えることができるか」の質問では、「問いについてあまり自分の考えを書けなかった」という理由から、2名の児童が「思わない」と回答した。自分の考えを持ちながらも、互いの考えを聞き合う中で、自信を持てないでいたことが考えられる。よって、描写に描かれている言葉を根拠に自分の考えを持つ大切さに気付かせ、自信を持たせる指導を個別にする必要があった。

6 指導観

本単元では、人物の会話や行動だけではなく、情景描写に着目させながら心情を読み取り、人物の心情の変化や、物語の世界を想像する力を身に付けさせるために、「物語を読んで理解したことを基に、『大造じいさん日記』という形式で人物像をまとめる」という言語活動を設定する。「大造じいさん日記」は、大造じいさんの心情や情景について、描写から読み取ったことを大造じいさんの視点に立って日記形式でKeynoteに書き留めていくものである。

まず、児童が問いを立てる段階では、児童が初読で登場人物の様子や物語の内容について持った問いを大切にす。しかし、この段階では、登場人物の行動に関する素朴な疑問や、辞典を引くと解決できる難語についての指摘が多く、単元の目標に結び付くような質の高い問いを設定することは難しいことが考えられる。そこで、初読の問いを班や全体で交流することを通してより質の高い問いへ精選していき、全体で読み深めていきたい問いを立てる。初読の問いから全体で読み深めていきたい問いを立てるまでの児童の話合いを単元計画の設定に生かすことで、児童が進んで学習課題を解決しようとする気持ちを持たせていく。

次に、学習課題を解決する段階では、全体で読み深めていきたい問いについて考え、大造じいさんの残雪への見方が変化したことを捉えさせるために、大造じいさんの心情に焦点を当て、特に心に残った表現や言葉から読みを深めさせていくようにしたい。物語に書かれている情景描写にも着目させて、場面の様子や大造じいさんの心情を読んでいく。人物の心情を読み取る際は、「どの文章を」「どのように読んで」「このように考えた」と、描写を根拠に自分の考えを整理させる。友達と互いの考えを聞きながら共通点や相違点を伝え合うことで自分の考えを持つことができるようにしていきたい。互いの読みを交流し合うことで、共に読み深められることを実感させていく。問いに対して描写を根拠に大造じいさんの心情を考え記述している姿や、友達との交流を通して自分の考えを練り上げている様子を見取り褒めることで、児童が自信を持って友達と交流することができるようにする。

一単位時間ごとの授業の終末では、本時の学習課題について、友達と交流しながら読み深めてきた大造じいさんの心情について「大造じいさん日記」に記述させる。また、「大造じいさん日記」にまとめることを通して、児童自身が自分の読みの変容を実感することができるようにしていきたい。

7 研究主題との関連

本研究では、児童の初読の問いから全体で読み深めていきたい問いを立て、友達と互いの読みを交流する単元構想を工夫することで、「自ら学びに向かい読みを深める児童の育成」を目指している。研究主題に迫るために、以下の手立てを講じていく。

(1) 児童の初読の問いを生かした学習課題の設定

班ごとにJamboardを活用して児童の初読の問いを分類させ、中心人物の心情の変化について考えら

れる問いに絞らせる。絞った問いを全体で共有し、自分が読み深めていきたい問いを選択させる。読み深めていきたい問いについて自分の考えを持たせるために、まず一人で読み進め、同じ問いを選んだ児童同士で班を作り交流させる。学級全体で班の意見を交流し、問いを比較・分類したり、関連付けたりして、全体で読み深めていきたい問いを立てる。全体で読み深めていきたい問いを解決する学習課題を立て、単元の学習計画を設定する。

(2) 課題解決において友達との交流を通して自分の読みを広げる言語活動の工夫

課題解決の手掛かりとなる描写を基に自分の考えをノートに整理させ、友達と互いの考えの共通点や相違点を伝え合うことで読みを広げさせていく。交流する目的を明確にし、どの描写を根拠に中心人物の心情を考えたのかを伝え合わせるようにする。交流を通して自分と友達の読みを比較し、友達の考えを青ペンで書き加えさせることで自分だけでは気付くことができなかった読みに気付かせていく。大造じいさんの心情について再考した自分の考えは、一単位時間ごとに「大造じいさん日記」に記述させる。

8 単元の指導と評価の計画

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。(1)オ)	「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ)	進んで友達の考えを聞いて自分の考えと結び付けて考え、学習課題に沿って感じたことや考えたことを「大造じいさん日記」にまとめ、友達と伝え合おうとしている。

(2) 単元の全体計画(9時間扱い 本時7／9)

時	○主たる学習活動・指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	○物語を通読し、初読の感想を問いと感想に分けて書く。初読の問いを友達と伝え合う。 ・班でJamboardを活用して、中心人物の心情の変化について考えられる問いに絞らせる。	[知識・技能] ノート・発言 場面の様子や登場人物の会話や行動、様子などを表す描写に着目して、問いを立てているかの確認
2	○班で絞った問いを学級全体で共有し、自分が読み深めていきたい問いを選んで、一人で読み進める。 ・一人読みで同じ問いを選んだ児童同士で班を作り、互いの考えを共有させる。 ・質の高い問いに絞っていくために、問いを選んだ理由を交流させる。	
3	○全体で読み深めていきたい問いについて話し合う。 ・全体で読み深めていきたい問いを立て、単元の学習計画を設定する。 ・全体で読み深めていきたい問いについて、自分の考えを記述するように指導する。	
4	○3つの計略から、大造じいさんの残雪を捕まえたい心情の変化について考える。	[思考・判断・表現] タブレット端末・発言 大造じいさんの様子が分かる描写を基に、大造じいさんの心情が変化したことについて考え、記述しているかの確認
5	○情景描写から、物語の様子や大造じいさんの行動・心情について考える。	
6	○最後の場面での大造じいさんの言葉から、「堂々と戦おう」と思う大造じいさんの心情を考える。	

	・大造じいさんの心情や様子が分かる描写に線を引き、自分の考えを整理することを確認する。 ・交流する活動では、友達の考えで参考になった部分は青ペンで書き加えることを確認する。 ・一単位時間ごとの学習課題について考えたことを、「大造じいさん日記」に記述させる。	
7 (本時)	○全体で読み深めていきたい問い「大造じいさんはどのような気持ちで銃を下ろしたのか」について考える。 ・大造じいさんの心情の変化を描写から捉え、人物像について自分の考えを記述させる。	[思考・判断・表現] ノート・発言 大造じいさんの行動や会話、様子を表している描写を結び付け、大造じいさんの残雪に対する心情について想像しているかの確認
8	○物語について、自分が感じたことや考えたことをまとめた「大造じいさん日記」を友達と伝え合う。 ・友達の考えと共通点や相違点を交流させる。	
9	○単元を振り返る。 ・どのように自分の考えが変わったのか、または変わらなかったのかをノートに記述させる。	[主体的に学習に取り組む態度] タブレット端末・観察 学習課題に沿って感じたことや考えたことをまとめた「大造じいさん日記」を友達と進んで伝え合おうとしているかの確認

9 本時の計画

(1) 目標

描写を基に、「大造じいさんがどのような気持ちで銃を下ろしたのか」について考え、大造じいさんの残雪に対する心情の変化を想像することができる。

(2) 本時の指導に当たって

本時では、大造じいさんが銃を下ろした行動から、おとりのがんに襲いかかるはやぶさに残雪が立ち向かっていくのを見た大造じいさんは何を思い、その後残雪を助けるまでにどんな心情の変化があったのか考えさせる。

ねらいに迫るために、大造じいさんの心情が表れている描写を根拠に、自分の考えを整理させていく。大造じいさんの心情をグループや全体で交流する際は、児童のつぶやきや発言を取り上げ、考えの根拠や理由を問い返したり、再び描写に着目させたりして、物語を多様な方向から読み深めていくことができるようにする。最後に、学習課題について振り返り、「大造じいさん日記」に自分の考えをまとめる。全体で読み深めていきたい問いを解決することで、物語に対する自分の読みを深めさせていく。

(3) 指導過程

段階	学習活動	形態	指導上の留意点	評価
	○主な発問・指示 ◆予想される児童の反応			
導入 3分	1 本時の学習課題を確認する。	一斉	◎学習計画を基に本時の学習を考えさせる。	
	大造じいさんはどのような気持ちで銃を下ろしたのかについて考え、大造じいさんの心情の変化を想像しよう。			

展開 40分	2 前時までを想起し、大造じいさんが銃を下ろした場面を音読する。 ○これまでの授業から、大造じいさんの残雪に対する気持ちを振り返ろう。 ◆一羽のがんも手に入らなくなったので、いまいましく思っていた。 ◆作戦が失敗して「ううむ」となるぐらい悔しかったし、捕まえたかった。 ◆東の空が真っ赤に燃える空の色のように残雪との戦とうに燃えていた。	一斉	◎「いまいましい」の言葉の意味を確認し、これまでの大造じいさんの心情を想起させる。 ◎「中心人物の大きな心情の変化は物語の山場で起こる」という既習事項から、大造じいさんが銃を下ろした場面を音読させる。 ◎山場の場面で、大造じいさんの心情が表れている描写を押さえる。	
	3 大造じいさんの心情について自分の考えを持つ。 ○大造じいさんはどのような気持ちで銃を下ろしたのだろう。自分の考えを3行程度で書き、友達と交流しよう。 ◆残雪が頭領として仲間のがんを助ける姿に感動してうつ気持ちがなくなった。 ◆人間はやぶさをおそれずに仲間を救いに向かった残雪の姿におどろいて心を打たれたからじゅうを下ろした。 ◆はやぶさにねらわれていたおとりのがんを助ける残雪の勇かな姿を見てうてなくなってしまった。	個別・グループ	◎「どの文章を」「どのように読んで」「このように考えた」と、描写を根拠に大造じいさんの心情について、自分の考えをまとめさせる。 ◎友達はどの描写を根拠に大造じいさんの心情を考えたのか、互いの考えを交流させる。 ◎友達の考えを聞くときは、青ペンで相違点を書き加えさせる。 ◎考えを持ってない児童には、友達の考えを参考にさせたり、一緒に考えたりする。	
	4 全体で考えを交流する。 ○大造じいさんが残雪に手を伸ばした行動から、残雪に対するどんな気持ちの変化が分かりますか。 ◆獲物だと思っていたが、仲間を救う姿に感動し、ただの鳥に対してのような気がしなくなった。 ◆頭領としての姿に心を打たれ、残雪を助け、また、堂々と戦いたくなった。 ◆自分の身を犠牲にしてもじたばたしない姿を見て、頭領としてのプライドを感じた。 ◆回復を待ちライバルとして正々堂々と戦いたい。 ◆今まで獲物としか見てこなかったが、生き物にも心があることを知った。	一斉	◎「どうしてそう考えたの」と問い返していくことで児童の多様な考えを引き出し、本時のねらいに迫っていく。 ◎「人間もはやぶさも」「救わねばならぬ」から、大造じいさんは、残雪をうつ気持ちがなくなっていったことを考えさせる。 ◎「手をのばしても」に着目させ、どんなふう to 手を伸ばしたのか考えさせることで大造じいさんの残雪に対する心情を想像させる。 ◎残雪を助けた心情や残雪を放した心情について考えさせ、大造じいさんの心情の変化に気付かせる。 ◎児童の気づきをつなぎ、大造じいさんの残雪に対する見方が、獲物から好敵手へと変化したことを考えさせるようにする。	

	5 大造じいさんの心情について、「大造じいさん日記」に自分の考えをまとめる。 ○大造じいさんの心情は様々な描写に表れていました。学習してきたことを基に「大造じいさん日記」をまとめよう。 ◆はやぶさから仲間を救うために、自分の身を犠牲にして立ち向かった姿を見ておれは感動してうつ気がなくなった。おれが近付くと、頭領としてプライドを持っておれをにらんでいる姿に、強く心を打たれ、お前をライバルだと認めたよ。 ◆はやぶさと戦っているお前をうつことはできた。しかし、自分のことなんか考えず、おとりのがンを助ける姿におれは強く心を打たれたのだ。自分が傷ついても最後まで堂々としている態度を見て、敵ながら尊敬したよ。	個別	◎前時までの学習と本時の学習を振り返り、自分の考えを「大造じいさん日記」に記述させる。 ◎問いに対する自分の考えを「大造じいさん日記」に記述させることで読みを深めさせていく。	【思・判・表】 (タブレット端末・発言)
まとめ2分	6 本時の学習の振り返りをする。	一斉	◎本時の振り返りと次時の学習の予告をする。	

(4) 本時の評価

評価の観点	評価規準	十分満足できる(A)	努力を要する児童への手立て(C)
思考・判断・表現	大造じいさんの様子が分かる描写を基に、大造じいさんの心情が変化したことについて考え、記述している。	複数の描写を結び付けて、大造じいさんの心情の変化について考え、記述している。	教師や友達との対話を通して、自分の考え付かなかった考えに気付き、大造じいさんの心情をノートに記述することができるようにする。

(5) 準備物

①教師：教科書、タブレット端末、紙板書

②児童：教科書、ノート、タブレット端末

(6) 板書計画

ただの鳥ではない
尊敬 英ゆう ライバル えらぶつ

強く心を打たれた

頭領らしい堂々たる態度
頭領としてのいげん

・ 仲間の命を救った勇かな姿を見た
・ 残雪の目には大造じいさんは入っていない
・ 仲間を助ける姿におどろいた
・ 自分の身をぎせいにしても助ける姿に感動した

ただ救わねばならぬ仲間のすがた

残雪の目には、人間もはやぶさもありませんでした。

大造じいさんはぐつとじゅうをくが、何と思つたのか、またじゅうをおろしてしまいました。

いまいまして（非常に腹立しい）

大造じいさんはどのような気持ちでじゅうを下ろしたのかについて考え、大造じいさんの心情の変化を想像しよう。

大造じいさんとがん
棕鳩十